

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（令和3年度）

法人名	特定非営利活動法人 しみんふくしの家八日市	代表者	楠神 渉	法人・事業所の特徴	住み慣れた家・地域でその人らしい暮らしが続けられるように、通い・宿泊・訪問サービスを24時間365日を通じて提供し、自宅・施設・地域での居場所づくり、環境づくりを支援します。施設においては、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとくつろいでいただき、スタッフはご利用者の思いを受け止め、その方に合った支援を行います。特に体調が認知症の進行に大きく作用するので、水分補給・食事摂取・排泄等、体調管理に力を入れています。一日の生活が、ゆったりと居心地の良い空間で過ごせるように 座席など環境に配慮しています。
事業所名	しみんふくしの家 八日市 小規模多機能型 居宅介護事業所	管理者	左近 國子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	人	6人	人	1人	人	人	1人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・運営推進会議を行うことに、自己評価、外部評価について理解してもらいやすいように、説明する。	・コロナ禍で書面会議に代えさせていただいたので、直接の説明、取り組みが出来なかった。	・自己評価については概ね理解してもらえたが、外部評価については評価の仕方が分かりにくい。	・運営推進会議では、内部・外部評価に対する理解をもらいやすいように開催時に少しずつ説明していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方が参加できる行事があればお知らせを行う(回覧板などを利用)。	・コロナ感染予防にスタッフ全員で取り組めた。 ・コロナ渦の中で、家族や地域との交流の取り組みが出来なかった。	・コロナ感染予防の為パーティションの設置等を行ったため、利用者の方に慣れてもらう為時間がかかった。	・居心地の良い居場所づくり、座席の配置など環境に配慮する。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域の方に知ってもらう取り組み。 ・地域の行事に参加する。	・しみんふくしの家全体のパンフレットを新しく作成、小規模多機能の事業が分かるパンフレットの作成を行う。 ・地域行事の会差しに合わせて参加・地域との交流の会議に参加する。	・事業所の存在がまだまだ地域に浸透していない。小規模多機能という施設の特徴を発信していく必要がある(よくわからないと言われる方が半分くらいおられる)。	・施設から季節に応じて行っているレクリエーション活動や創作活動等をミニ新聞などでお知らせしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	・各地域へ利用者の方が参加できるような支援を行う。	・民生委員の方と連携が取れている方は地域への参加が出来ている。地域の行事に参加できなくても近所の方に支えてもらい自宅での生活が継続できている。	・サービスだけでは利用者の生活の継続が出来ない点を含め、地域との関りを継続できるようにする。 ・地域の行事も中止になっている。	・地域との関りが継続できるようにしていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	・事業所が抱える問題点の発見、交流を行う。	・運営推進会議でいあんしていただいたので、大きく見やすい看板に取り替えた(看板が小さくて存在感がない)。	・運営推進会議での意見が気づきにつながっている。	・運営推進会議を利用して、いろいろな意見を聞き、改善をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	・地域が行う、防災訓練に参加する。 ・事業所の防災訓練を行う日を押しらせて参加していただく。	・避難場所まで利用者の方と訓練を行う。	・半分の方が分からないとの意見でした。	・避難訓練、災害時の対策を行う。 ・地域の消防団との交流。 ・訓練日を運営推進会議や回覧板などでお知らせし一緒に参加してもらう。